

桐鈴凜々

第99号
平成27年1月15日発行
発行責任者
社会福祉法人 桐鈴会
理事長 黒岩秩子
南魚沼市浦佐 5142-1
電話 025-780-4118
FAX 025-777-3731
e-mail
info@toureikai.com
<http://www.toureikai.com/>

「さあ！今年も楽しくいきましよう」

桐鈴会理事長 黒岩秩子



あけましておめでとうござ
います。昨年も多く皆さまか
ら桐鈴会への温かい応援、ご支
援をいただき本当にありがとう
ございました。振り返ってみる
と昨年は、工房とんとん船出の
ために、職員・ボランティア・
地域の皆さまが力を合わせて船
を押したり、引いたりした一年
でした。職員が身を削って利用
者さんと共に快適な時間を過ご
せるようにと、いろいろな工夫
をしてきてくれているにもかかわ
らず、また、厨房の皆さまが、ボ
ランティアの皆さんの手を借り
ながらおいしいものを工夫して
作り、パン工房も次々に新しい

種類を作って開拓している、に
もかわらなかな軌道に乗
ることができませんでした。

しかし「待てば海路の日和あ
り」。一番の解決策である利用者
を増やすということが、職員た
ちのがんばりのおかげで、徐々
に満たされつつあります。また、
ほかの社会福祉法人が実施して
いる後援会組織を作って地域の
皆様のご協力を得よう、とい
うことにも取り組んでみることに
なり、この4月から始める予
定です。次号で改めてお願いす
ることにします。

高齢者の施設が、近隣にどん
どんできました。そのためにへ

桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す
・高齢者、しようがいしゃ、子どもたちが
安心して住める地域を創ろう



ルパーステーションの利用者さ
んが減ってきたり、桐の花のデ
イサービスを利用する人がいな
くなったりで、私も市内のケア
マネの皆さんにお願いに回る初
体験をしました。今では何とか
改善されましたが。

それにしてもいつも考える
ことは、職員たちが皆で頭を寄
せ合って、大変なことに立ち向
かっていつて何とか解決策を見
つけ、利用者さんたちを大切に
することを第一にしているにも
かわらず、なんて低い給料なの
だろうということ。多く
の職員は腰痛などに悩まされ、
治療しながら何とか続けている
というのが実態です。

本当に対価が少ないにもか
かわらず、また介護保険法の改
定で介護料を下げるといってい
る。許せない思いです。

11月には突然、解散総選挙と
いうことになりました。私は、
またしても1か月間息子の選挙
で、新発田に行っていました。

今回は、桐鈴会全体としてとて
も落ち着いていて、12月1日の
忘年会、歓送迎会に戻ってきた
だけでした。結果は、ご存知の
ように新潟県内一人だけ小選挙
区で当選できた民主党でした。
「介護職の待遇改善」を一つの
スローガンにして訴えていた黒
岩宇洋に、雪国には必需品であ
る消雪パイプを建設費補助の対
象にすることにも取り組んでも
らうつもりです。

2015年は桐鈴会、そして
皆様にとって明るい年であるこ
とを願い、新年のご挨拶としま
す。





ケアハウス 鈴懸

新年あけましておめでとうございます

本年もどうぞよろしくお願いたします。

新潟県南魚沼市
浦佐5142の1
社会福祉法人 桐鈴会
(入居者、役・職員一同)



鈴懸おはようヘルプ





工房とんとん



ケアホームおひさま



グループホーム桐の花



グループホームひまわり



「退職の挨拶」
前ケアハウス鈴懸施設長

林 幸英



11月末日を以て鈴懸施設長を引退させていただきます

した。平成23年12月1日から3年間、ケアハウスという福祉施設での勉強と貴重な体験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

この間、役員をはじめ関係機関、施設等多くの皆様方と出会ったことが、私にとって大きな財産であり、これからの人生の糧になったことは言うまでもありません。感謝です。

また、反面、これらの多くの皆様方からご指導、ご教示ご支援を賜ったにもかかわらず、ご迷惑をかけたたり、ご期待に添うことができず、ただただ申し訳なく反省の限りです。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

当初、この職を引き受けた時、ただ漠然とでしたが、次の人へのスベア、リリーフ的な役割で3、4年勤めればいいのかなど思っていました。家庭の事情等もあり、ちょうど3年の節目となったことと、男性の健康寿命(70・4歳)となっている年代に到達したことが、私の気持ちを一気に「引退するなら今でしょ」ということにさせた次第です。無責任だと思われるかもしれませんが、本人の非才さに免じてご容赦ください。

在職中の3年間、特に悪い思い出は残っていません：と言いたいところですが、ただ一つ苦しい思い出がありました。それは平成24年度1年間の通信課程で「社会福祉施設長資格認定講習課程」を終了したことです。

これも終わってみれば「苦のあとは楽」となり、良い思い出に変わっています。その他、年間行事への参加を含め、良い思い出、楽しい思い出等、心に残る思い出がたくさんあります。これも、桐鈴会の職員はそれぞれ個性があり、よく働いてくれる素晴らしい職員であること

お蔭だとありがたさを噛み締めています。職員の皆さん本当にありがとうございます。これからも自分の身体は自分で気遣いながら、そして自分の「徳」になるべく、「世のため人のために尽くす」ことを念頭に働いてください。

入居者の99・9%以上の方が私より年齢では先輩でした。それぞれの個性と生き様を日々の中で感じながら、余計な気遣いをしたり、心配したり、気の毒に思ったりしながらも、私なりに楽しむことができました。今

3年間本当にお世話になりました。これからも本当に良い「終の棲家」の鈴懸という家庭を大切に、心豊かにお過ごしください。

桐鈴会は、施設の保有も組織も大きくなり、益々地域への貢献度、期待も大きくなります。地域の信頼を得ながら社会福祉法人桐鈴会の理念の実現を目指して、更に飛躍的發展をすることを心から念じて引退の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



美男から美女へ「バトンタッチ！」12/1 歓送迎会にて

「よろしく願います」

ケアハウス鈴懸 施設長

鈴木 智子



あけましておめでとうございます。このたびケアハウス鈴懸林前施設長の辞任に伴い、12月1日付けで施設長に就任しました鈴木智子です。出身は北海道で30年前に浦佐に縁あって

嫁いでまいりました。知っている人は夫だけという状況でしたが、当時、北海道出身が珍しかったらしく多くの方に声をかけていただいたり、お誘いを受けたりし、町内会、婦人会、PTA等で、仲間が増えていきました。ですから大抵のお誘いには応じてきました。そこで新しい仲間ができ、貴重な学びの機会がありました。

桐鈴会でもボランティア、評議員、理事、監査、夢草堂運営委員会などでお手伝いをしてきました。そして桐鈴会で働く職員の皆様の仕事にかける熱意、利用者の方への配慮には常々感心していました。

施設長という大役は自分には無理と思っていました。この素晴らしい職員の皆さんと一緒に、私の福祉に対する知識のなさやいたらない点をカバーしてもらえないかと思いい、お受けすることにしました。

施設長として一ヶ月になりますが、私が思った通り、職員の皆さんが大変丁寧に教えてくれるので今のところ、何とか日々を過ごすことができていま

す。本当に感謝です。また利用者の皆さまも温かく迎えて下さり、有難く思っています。私の唯一の得意技はおしゃべりです。やっと職員と利用者の皆さんの顔と名前を覚えたので、これから皆さんとおしゃべりしながら仲良くなっていこうと思っております。

ケアハウス鈴懸は今年で15才です。人間の年というとまだ中学生ですが、高齢者にとって15年という年月は大きな変化をもたらします。皆さんお元気で、確実に平均年齢は高くなってきました。年齢が高くなると自然サービスの提供も多くなってきました。これから課題となるのは高齢になっても、入居者の皆さんに心地よく安心して過ごしていただくかです。同時に施設の健全な運営も維持していかねければなりません。そのためには入居者の皆さま、ご家族の皆さま、地域の皆さまのご理解とご協力が必要となります。今年も変わらず皆様の力を借りたいと思っております。よろしくお願ひします。

退職・新任職員の紹介

○星澄子さん



すずカフェ厨房でパート職員として勤めて下さった星澄子さんが12月をもって退職されました。星さんは管理栄養士として長いキャリアがありますが、カフェの経験は初めてで、アイスクリームのトッピングやかき氷の盛り付けなどにチャレンジ。楽しくお仕事をされる名人で、厨房内はいつも笑いが絶えませんでした。ご家族の介護のため退職しますが、介護の合間にすずカフェにお寄り下さい。ありがとうございます。(鈴木智子)
* 鈴木は11月までボランティアとして一緒に働いていました。

グループホーム桐の花

介護員 田原昭美



12月より桐の花でお世話になっていきます。

介護の仕事はデイサービスしか経験がなく、グループホームのホッとする空間に、心温まるような思いで務めさせていただきます。

利用者の方々に早く覚えていただけるように笑顔で接していきたいと思ひます。

機敏に動けず、呑み込みの悪い私に親切にご指導くださる職員の皆様に、迷惑をかけながら頑張つていきますのでよろしくお願ひいたします。

「おひさま

一周年記念の集い」
ケアホームおひさま
管理者 森山里子

今年の12月1日がおひさまの竣工式でした。その頃のあわただしさがつい最近のようによみがえってきますが、早いもので一年余りが過ぎました。

一周年の記念の集いを11月23日の勤労感謝の日に入居者、ご家族、職員で工房とんとの食堂を借りて行いました。

この日の料理はとんとの厨房の桜井を中心に、おひさまの調理担当の世話人も手伝って作り、赤飯からオードブル、茶わん蒸しなどすべて手作りのおいしい料理でのお祝ひになりました。



入居者、ご家族、職員みんなで楽しい食事

した。桜井が自宅から材料を持ってきて作ったウドのきんぴらや蕨のおひたしなど、心のこもった料理がとてもおいしく、ご家族の皆さんもとても感激していました。とんさんの食堂に一度に24人も人が入るといったばいで料理や飲み物が並びきれないほどでした。

何かアトラクションをと、お願いした魚沼市の長谷川枝三子さんのマジックショーも、音楽に合わせてきらびやかな衣装で行う楽しいもので会がとても盛り上がりました。

会の途中で参加者全員から自己紹介や感想を述べていた

きました。事前に入居者の皆さんにはおひさまに来てよかったです。と思うことでも、いやだなあと頼んでおきましたが、なかなか本音を言うことは難しいようで、感極まって涙ぐむ人もいました。そのあとで初めての家族会も開かせていただきました。楽しいことも嫌なこともいっぱいあった一年間だったと思います。入居者も職員も誰ひとりやめることなく、竣工式と同じ顔触れで迎えることが出来た一周年を祝う会は、私にはとてもうれしいものとなりました。ありがとうございました。

「それぞれのクリスマス会」 ケアホームおひさま 生活支援員 富永なつみ

今年も各施設でクリスマス会が開かれました。それぞれの様子取材しましたので紹介します。



ケアハウス鈴懸



鈴懸のクリスマス会はクリスマス当日の夕食で行われました。メニューは鶏のから揚げ、ぜんまいの煮物、エビのマリネ、フルーツなど和洋折衷で様々な



サンルーム音楽隊による「花笠音頭」

が披露されたり、全員で「北国の春」の合唱をしたりで、大いに盛り上がりました。また普段は静かな方が美声を披露し、おとなしい方が頭に花をつけて歌いました。全員で作りの、全員で盛り上げた会となりました。

グループホーム桐の花



ごちそうが並びました（もちろんアルコールも）。クリスマスケーキは職員の力作です。

クリスマス会は楽しい雰囲気の中始まりました。会の中盤に入ると芸達者な職員による「花笠音頭」や「きよしこの夜」

桐の花ではクリスマス当日のお昼に鍋パーティーを行いました。ビールで乾杯し、温かい鍋をほっこりいただきました。

第2部として3時のおやつの時間には4名のボランティアの方々が手遊び歌、ハンドベルの演奏を披露してくださいました。手遊び歌ではみんなでリズムに乗って体を動かしました。

ハンドベルでは素敵な音色を聴かせていただき、さらに入居者の皆さんもカスターネットやトライアングルなどを使って一緒に演奏したり、歌を歌ったりして楽しい時間を過ごしました。最後にクリスマスケーキをいただきました。また12月誕生者の方々にはボランティアのお子さんから手渡しでのプレゼントが

あり、とても喜んでおられました。心温まるクリスマスとなりました。



「はい、プレゼント」2年前に亡くなった関キミさんのひ孫さん（ボランティアの一人）から

ケアホームおひさま



おひさまではイブの夕食にクリスマス会を行いました。メインは大きなローストチキンで、世話人が腕によりをかけた華やかなメニューでした。まずはスパークリングワインで乾杯し、楽しい雰囲気の中で食事となりました。最後には前日に入居者と職員で作ったクリスマススケ

ーキとレアチーズケーキが振る舞われました。イチゴがたっぷり入っていて、とてもおいしくいただきました。

プレゼントは音楽に合わせて皆で回し、止まった時に手元にあるものです。何が入っていたかは秘密ですが、会一番の盛り上がりを見せたことだけは確かでした。写真はとっても素敵なおひさまのサンタさんとトナカイさんです。



メリークリスマス♥

お知らせ



「ケアハウス鈴懸」、「鈴懸おはようヘルプ」のメールアドレスが変わりました!

○ケアハウス 鈴懸

suzukake@toureikai.com

○ 鈴懸おはようヘルプ
ohayo-help@toureikai.com

インド旅行記③

「ノープロブレム」
桐鈴会理事長 黒岩 秩子

今回、私にとっては2回目のインド。1回目は、20年前のお正月でした。ムンバイ（その頃はボンベイと言われていた）に降りてそれより南に行っただけでした。その時にも信じられないような体験をしました。マドライと言うところだったと思うのですが、道を歩いていて、当時高校生だった帆姿（ほし）がインドの女子高校生と英語で会話をしていたら、「明日の昼食をその人の家で食べる」と言う約束ができたというのです。こちらは、うちの家族6人と萌実の友達とで7人です。翌日信じられない思いを抱えながら、教えられた通りにバスに乗り、その後はリキシャに乗って畑の中を走り、2時間ぐらいかかっただどりつきました。その高校生の話では、ヒョコを輸出する会社をお父さんが経営しているとのこと。行ってみたら従業員が50人もいます。女子高校生はサリーを何十着も持っていて、我



デリーの街の多様性ある光景

が家の帆姿、海映（みはえ）はそのサリーを、巖志（がんじ）は彼女のお兄さんの民族衣装を借りて、写真を撮ったりしました。そうしている間になんとインドのフルコース料理が出来上がって、本当に豪華な昼食にありついてしまったのです。巖志は当時医大生、彼女のお兄さんも医大生でした。「将来国境なき医師団と一緒に仕事を」などと話し合ったのです。

その時のお土産には、ノープロブレムと英語で書いてあるハンカチみたいなものをたくさん買ってきました。この、「ノープ

ロブレム」と言う言葉こそ、インドを表現するのにふさわしい言葉だと思ったからです。「気にしない」という意味ですが、何しろ、すべてのお札に当時は、14の言葉が印刷されていました。14の民族が仲良く暮らしていく知恵なのでしょう。道を歩くにも多くの人が裸足で、私もその頃は一緒に歩いていて、牛や犬の糞を踏みながら裸足で歩いたものでした。

今回デリーは初めて。デリーで降りてすぐに感じたのは、以前と違っておなかが出ている人が多いということでした。20年前には、ほとんどおなかが出ていませんでした。みんなスマートでかっこ良かった。

でも、おなかが出ている人が増えても物乞いをする人は減っていないという印象です。ニューデリーで、萌実が札幌でヒンディ語を習っているインド人の先生の弟さんの家を訪ねました。萌実が言うには、毎年来ていて、けいどんどん変化しているというのです。今年は部屋が改装されていて、エアコンがついた。去年は、車を買った、一昨年は

：と言うように、日本の経済成長の頃と同じ感じの中産階級ができてきている、と言うことなのか？

交通事情が全然変わっていないのが印象的でした。と言うのは、ルールと言うものがあるのかなのか？と言う感じなのです。確かに広い道路に3車線



エンジンのついたリキシャに乗る筆者

だと分かるようにラインは引いてあります。けどドライバはほとんどがそんなものは無視しています。警笛を鳴らして少しでも隙間があれば右からでも左からでも入って行って追い越すのです。インドの車で一番先

に駄目になるのはクラクションだといえます。まあ！うるさいこと、自分の車が行くぞと言う意味でクラクションを鳴らします。1センチぐらいの間しか残っていないようなところでも入り込んでいってしまいます。確かにリキシャは、車より幅が狭い。だから小回りが利きません。こんな運転の仕方をしてよく事故が起きないと感激していたら、車の周りに擦り傷ができないようにガードをつけているリキシャがありました。9日間私たちは一度もぶつかるどころを見ませんでした。コンプライアンス（法令遵守）なんていう概念はないように思えました。そういう点で私と同じで、いごちがいい国です。（完）

「いくつもの

カルチャーショック」

おひさま・ひまわり

管理者・サービス管理責任者

森山里子

昨年は私にとって何年振りかで勉強をする機会に恵まれた年でした。どうしても行かないわ

けにはいかなくなって仕方なく参加した3回のサービス管理責任者（サビ管）研修は特に印象的な講義がいくつかありました。なかでも2回目の大塚晃さんという人の講義は私にとってカルチャーショックでした。現在は上智大学の教授で、以前国立コロンビアで指導員をしていた人で、その後厚労省の専門官をして総合支援法の制度改正にも深くかかわったそうです。発達障がい（区分6）を持つ28歳の息子がいます。息子さんはケアホームに3年程生活していたのですが、4か月ほど前に大変になり出ていってくださいます。わかれて今は生活介護、訪問介護、行動援護等を使って在宅で過ごしているそうです。

その大塚さんがおっしゃるには障がいを持った人のできない所や悪いところを見るのではなく、とにかく良いところのみを見ていくのがエンパワメント（力づけ、勇気づける支援）ということだということです。ダメなところは見ないようにし、困ったことは無視するのだそうです。重度発達障がいの息子を持

ち、在宅で見ている人が言うことはやはり説得力があります。そういう人が総合支援法を作ったのだということがまた印象的でした。

すべての人が意思決定や自己決定の能力があるということも前提に、サビ管は個別支援計画も本人の了解を得てたてるのです。意思決定ができない人にはそれができるように支援していく。家族に見せられないような計画ではだめだ。いい計画か駄目な計画かは3秒もあればわかる。使う言葉がすべてを物語る。

させる、指導する、確立する、展開する、課題、問題……こういう言葉は一切使わないなどなど。

今年度は毎日のようにおひさまとひまわり二つのホームをはじめとして入居者の人たちと深くかかわり、夜遅くなつてようやく家に帰ると、なんだかエネルギーを吸い取られるような気がしていたところですが、さらにいろいろ考えさせられる事の多い研修でした。

また11月に東京で開催された当事者研究も興味深いことが

沢山ありました。精神障がい、引きこもり、摂食障害、ニートなど沢山の生きづらさを抱えた当事者たちが自分のことを、大勢の人の前で歌ったり踊ったりしながら、「研究成果」として発表しているのです。ベテルの家の向谷地さんを始めとする人たちが中心となつて、当事者研究という形で自分のことを表現することに成功したのです。

彼らのことを知れば知るほど、そういう人たちに余裕を持つて日々接するということの大変さを感じてしまいます。日常業務をこなしながら仕事としてたつぷりと時間をかけて付き合うことはなかなか難しく、自分の時間をいくら使っても、13人の人たちとさえ十分付き合えていないと日々感じているのですから。

そんなわけで一緒に参加した黒岩理事長とは、今度桐鈴会でも当事者研究やろうよと言つてはみたものの、理事長のように、一人一人の発表を楽しんで聞くことができなかったのです。



新春川柳雑詠



・寿を一つ重ねる 初日の出
元日に 元気をくれる

福寿草

・屠蘇汲んで 今年も病

寄せつけず

・鈴懸に ほほ笑み合うて

皆達者

・五七五 頭もフルに

使おうよ

平成27年元旦 酔泉



工房とんどんリサイクル品 売上げ報告

思いがけない大雪で、今年のリサイクル品回収は終了となりました。お陰様で、チリも積もればで14,203円の収益を得ることができました。資源のリサイクルにもつながり利用者さんの工賃にも反映でき一石二鳥です。本当にご協力ありがとうございました。

春は、4月1日から回収開始となりますのでよろしくお願いいたします。

編集後記



◆「こんな降り方は初めてだ！」大きな雪片が止むことなく降り続き、もくもくと街中を白く埋めてしまった12月の初雪。◆初雪のしんみりとした情緒もなく、一気に大雪の苦労を強いられてしまった。◆この様を見て、96歳になる入居者の方も「人生初めてだ」と目を丸くしておられた。◆とあるニュースで、『雪かきは雪国の文化であり、雪かきの大変さもまたそうである…』というような事を述べられていた。とんでもないと言いたい。◆特に在宅の高齢者にとって「雪掘り」（「かき」どころではない）は大変な重労働だ。独居の方にとつても心配でたまらない事だろう。◆訪問した独居の方のお宅では、地域の方々の支援で「雪掘り」が行われていた。「ありがたい」と利用者さんの表情はとても安心されていた。◆新潟の冬は厳しい。厳しいからこそ温かな助け合いがある。そのつながりに焦点を当てて頂きたいと思った。

（上村 久美子）